

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎探究(必選)

教 科： 理科 科 目： 化学基礎探究(必選) 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 選択者

教科担当者：濱口

使用教科書：（ 高等学校 新編化学基礎（東京書籍） ）

教科 理科 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎探究(必選) の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	物質質量と化学反応式 【知識及び技能】 物質質量と化学反応式についての実験などを通して、物質質量、化学反応式のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 物質質量と化学反応式について、観察・実験などを通して探究し、物質質量、化学反応式を見出して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 物質質量、化学反応式に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・銅の酸化の実験から、質量の関係を見いだして考察する。 ・化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	【知識・技能】 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。〔発言分析・記述分析〕 【思考・判断・表現】 実験結果から反応物と生成物の比を求めさせ、化学反応式の係数の比と比較させることを通して、物質質量の比が化学反応式の比を表していることを見いだした活動を行っている。〔発言分析・行動観察〕 【主体的に学習に取り組む態度】 化学反応における量的関係についての実験を行い、化学反応式の係数が物質質量の比を表していることを見出そうとしている。〔発言分析・行動観察〕	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	酸と塩基(1) 【知識及び技能】 化学反応についての実験などを通して、酸・塩基と中和のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 化学反応について、観察・実験などを通して探究し、酸・塩基と中和を見出して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 酸・塩基と中和に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。	【知識・技能】 酸と塩基の性質及び定義を理解している。〔発言分析・記述分析〕 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。〔発言分析・記述分析〕 【思考・判断・表現】 酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。〔発言分析・記述分析・行動観察〕 【主体的に学習に取り組む態度】 酸・塩基について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	9
	酸と塩基(1) 【知識及び技能】 化学反応についての実験などを通して、酸・塩基と中和のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 化学反応について、観察・実験などを通して探究し、酸・塩基と中和を見出して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 酸・塩基と中和に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるものになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 ・中和の条件は、酸から生じるH ⁺ の物質質量と塩基から生じるOH ⁻ の物質質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。	【知識・技能】 酸と塩基の中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。〔発言分析・記述分析〕 【思考・判断・表現】 器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。〔発言分析・行動観察〕 【主体的に学習に取り組む態度】 中和滴定の実験を行い、食酢の濃度を正確に調べるために、正しく器具を使い、科学的に考察しようとしている。〔発言分析・行動観察〕 この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる〔発言分析・記録分析〕	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

